# 安全データシート

作成日:1998年12月1日
改訂日:2012年6月1日

## 1. 化学品及び会社情報

| | |
|---|---|
| 化学品の名称 | 硝酸カリウム |
| 会社名 | 米山薬品工業株式会社 |
| 住所 | 大阪市中央区道修町2丁目3番11号 |
| 担当部門 | 品質保証室 |
| 電話番号 | (06)6393-4001 |
| FAX番号 | (06)6396-7714 |
| 整理番号 | CB1959 |

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類

| | |
|---|---|
| 物理化学的危険性 | 酸化性固体:区分3 |
| 健康に対する有害性 | 急性毒性(経口):区分5<br>皮膚腐食性・刺激性:区分2<br>眼に対する重篤な損傷・眼刺激性:区分2A-2B<br>生殖毒性:区分2<br>特定標的臓器・全身毒性:区分2(血液)<br>(単回ばく露) 区分3(気道刺激性)<br>特定標的臓器・全身毒性:区分2(血液)<br>(反復ばく露) |

＊記載のないものは「分類対象外」,「分類できない」または「区分外」。

ラベル要素

絵表示又はシンボル

| | |
|---|---|
| 注意喚起語 | 警告 |
| 危険有害性情報 | 火災助長のおそれ ; 酸化性物質<br>飲み込むと有害のおそれ(経口)<br>皮膚刺激<br>強い眼刺激<br>生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い<br>血液の障害のおそれ<br>呼吸器への刺激のおそれ<br>長期又は反復ばく露による血液の障害のおそれ |
| 注意書き | 【安全対策】<br>すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。<br>使用前に取扱説明書を入手すること。<br>この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。<br>可燃物、その他の禁忌物質から離して保管すること。<br>熱から遠ざけること。<br>個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。<br>保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。<br>屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。<br>粉じん、ヒュームを吸入しないこと。<br>取扱い後はよく手を洗うこと。<br>【救急処置】<br>火災の場合には適切な消火方法をとること。<br>吸入した場合:空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。<br>眼に入った場合:水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。<br>皮膚に付着した場合:多量の水と石鹸で洗うこと。<br>汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。 |

| | |
|---|---|
| | ばく露又はその懸念がある場合:医師の診断、手当てを受けること。<br>眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。<br>気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。<br>皮膚刺激があれば、医師の診断、手当てを受けること。<br>【保管】<br>可燃物、その他の禁忌物質から離して保管すること。<br>容器を密閉して換気の良いところで施錠して保管すること。<br>【廃棄】<br>内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。 |

## 3. 組成､成分情報

| | |
|---|---|
| 化学品・混合物の区別 | 化学品 |
| 化学名又は一般名 | 硝酸カリウム |
| 化学式 | $KNO_3$ |
| CAS No. | 7757-79-1 |
| 官報公示整理番号（化審法/安衛法） | (1)-449 |
| 危険有害成分 | 硝酸カリウム |
| GHS分類に寄与する成分 | 硝酸カリウム |
| 化学名又は一般名 | 硝酸カリウム |
| 濃度範囲 | 99%以上 |
| CAS No. | 7757-79-1 |

## 4. 応急措置

| | |
|---|---|
| 吸入した場合 | 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。 |
| 皮膚に付着した場合 | 水と石鹸で洗うこと。<br>皮膚刺激が生じた場合、医師に連絡すること。 |
| 眼に入った場合 | 水で数分間注意深く洗うこと。<br>眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。 |
| 飲み込んだ場合 | 口をすすぐこと。<br>気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。 |
| 急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状 | 吸入 ： 咳、咽頭痛<br>皮膚 ： 発赤<br>眼 ： 発赤、痛み<br>経口摂取 ： 腹痛、紫色(チアノーゼ)の唇や爪、紫色(チアノーゼ)の皮膚、めまい、息苦しさ、錯乱、痙攣、下痢、頭痛、吐き気、意識喪失 |
| 応急処置をするものの保護 | データなし。 |
| 医師に対する特別な注意事項 | データなし。 |

## 5. 火災時の措置

| | |
|---|---|
| 消火剤 | 水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤（水素化炭酸塩を除く）、乾燥砂類 |
| 使ってはならない消火剤 | データなし。 |
| 特有の危険有害性 | それ自身は燃えないが、支燃性である。<br>可燃物（木、紙、油、布等）を発火させるおそれがあ<br>火災に巻き込まれると、燃焼を加速する。<br>熱及び不純物の混入により爆発するおそれがある。<br>火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。 |
| 特有の消火方法 | 危険でなければ火災区域から容器を移動する。<br>消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。<br>容器が熱に晒されているときは、移動しない。 |
| 消火を行う者の保護 | 適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。 |

## 6. 漏出時の措置

| | |
|---|---|
| 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 | 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 |

| | |
|---|---|
| | 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 |
| | 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離し関係者以外の立入りを禁止する。 |
| | 密閉された場所に立入る前に換気する。 |
| 環境に対する注意事項 | 環境中に放出してはならない。 |
| 封じ込め及び浄化の方法及び機材 | 漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。 |
| | 水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。 |
| | プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。 |

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

| | |
|---|---|
| 技術的対策 | 消防法の規定に従う。 |
| 安全取扱い注意事項 | 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。 |
| | 衣類、その他の可燃物から遠ざけること。 |
| | 裸火または他の着火源に噴霧しないこと。 |
| | 適切な保護手袋、保護面を着用すること。 |
| | 使用前に取扱説明書を入手すること。 |
| | 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこ |
| | 適切な個人用保護具を使用すること。 |
| | 粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーを吸入しないこ |
| | 取扱後は手をよく洗うこと。 |
| | この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと 。 |
| 接触回避 | 10項に示す混色危険物質との接触を回避する。 |
| 衛生対策 | 取扱い後はよく手を洗うこと。 |

### 保管

| | |
|---|---|
| 安全な保管条件 | 気密容器に入れ、通風換気のよい乾燥した涼しい場所に保管する。 |
| | 可燃物、その他の禁忌物質から離して保管すること。 |
| | 施錠して保管すること。 |
| 安全な容器包装材料 | ポリプロピレン、ポリエチレン |

## 8. 暴露防止及び保護措置

### 許容濃度（出典）

| | |
|---|---|
| 日本産衛学会 | 未設定 |
| ACGIH | 未設定 |
| 設備対策 | この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 |
| | 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。 |

### 保護具

| | |
|---|---|
| 呼吸用保護具 | 適切な呼吸器保護具を着用すること。 |
| 手の保護具 | 適切な保護手袋を着用すること。 |
| 眼の保護具 | 適切な眼の保護具を着用すること。 |
| 皮膚及び身体の保護具 | 適切な保護衣を着用すること。 |

## 9. 物理的及び化学的性質

| | |
|---|---|
| 外観（物理的状態、形状、色等） | 無色、斜方又は三方晶系結晶 |
| 臭い | 無臭 |
| 臭いの閾値 | データなし。 |
| pH | データなし。 |
| 融点・凝固点 | 339℃ |
| 沸点、初留点及び沸騰範囲 | データなし。 |
| 引火点 | データなし。 |
| 蒸発速度 | データなし。 |
| 燃焼性（固体、気体） | データなし。 |
| 燃焼又は爆発範囲の上限・下限 | データなし。 |
| 蒸気圧 | データなし。 |

| | |
|---|---|
| 蒸気密度 | データなし。 |
| 比重（相対密度） | 2.1 |
| 溶解度 | 13.3g/100g（0℃ 水） 246g/100g（100℃ 水）<br>アルコールに難溶、グリセリンに可溶 |
| n-オクタノール/水分配係数 | データなし。 |
| 自然発火温度 | データなし。 |
| 分解温度 | データなし。 |
| 粘度（粘性率） | データなし。 |
| その他のデータ | データなし。 |

## 10. 安定性及び反応性

| | |
|---|---|
| 反応性、化学的安定性 | 法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。 |
| 危険有害反応可能性 | 加熱や燃焼により分解して窒素酸化物、酸素を生じ、火災の危険性を増大させる。強力な酸化剤であり、可燃性物質や還元性物質と反応する。<br>赤リン、アルミニウム、マグネシウム等との混触で発火する。 |
| 避けるべき条件 | 加熱や燃焼 |
| 混触危険物質 | 可燃性物質や還元性物質<br>赤リン、アルミニウム、マグネシウム等 |
| 危険有害な分解生成物 | データなし。 |

## 11. 有害性情報

| | |
|---|---|
| 急性毒性 | 経口 ﾗｯﾄ $LD_{50}$ ﾗｯﾄ 3750mg/kg |
| 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 | 皮膚に触れると薬傷を起こす。 |
| 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 | 眼に触れると薬傷を起こす。 |
| 呼吸器感作性又は皮膚感作性 | データなし。 |
| 生殖細胞変異原性 | データなし。 |
| 発がん性 | データなし。 |
| 生殖毒性 | ラットを用いた混餌投与による二世代繁殖試験で子動物に奇形が認められた。 |
| 特定標的臓器毒性（単回暴露） | 血液の障害のおそれ、呼吸器への刺激のおそれ |
| 特定標的臓器毒性（反復暴露） | 長期又は反復暴露による血液の障害のおそれ |
| 吸引性呼吸器有害性 | データなし。 |

## 12. 環境影響情報

| | |
|---|---|
| 生態毒性 | データなし。 |
| 残留性・分解性 | データなし。 |
| 生体蓄積性 | 環境にとって危険であると思われる。地下水への蓄積に対して特に注意すること。（ICSC） |
| 土壌中の移動性 | データなし。 |
| オゾン層への有害性 | データなし。 |

## 13. 廃棄上の注意

産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。

## 14. 輸送上の注意

運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

| | |
|---|---|
| 国連番号 | 1486 |
| 品名（国連輸送名） | 硝酸カリウム |
| 国連分類 | クラス5.1 |
| 指針番号 | 140 |
| 容器等級 | Ⅲ |
| 海洋汚染物質 | 該当しない。 |

## 15. 適用法令

| | |
|---|---|
| 化学物質管理促進法（PRTR法） | 該当しない。 |
| 毒物及び劇物取締法 | 該当しない。 |
| 労働安全衛生法 | 危険物・酸化性のもの |

| | |
|---|---|
| 消防法 | 第1類硝酸塩類・第1種酸化性固体 |
| 水質汚濁防止法 | 有害物質 |
| 船舶安全法 | 酸化性物質 |
| 航空法 | 酸化性物質 |

## 16. その他の情報

引用文献

安全衛生情報センターHP

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報　データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。